



氷見市教育総合センター

〒935-0016 氷見市本町4-9

(氷見市教育文化センター内)

TEL 0766-74-8220 (代)

FAX 0766-72-8122

E-mail kyouikukenkyu@city.himi.lg.jpホームページ <http://www.city.himi.toyama.jp/hp/department/Top/kyouiku-i/kyouikukenkyu>

夢そして努力

氷見市教育委員会
教育長 有島 洋之

2024年9月19日(日本時間20日)、メジャーリーグで活躍する大谷翔平選手が、前人未達の「50-50」(50本塁打-50盗塁)を達成しました。大谷選手の快挙は、

勇気と希望を与える明るい話題となりました。この日は、2023年9月19日に右肘手術を受けてからちょうど1年の日でもありました。

大谷選手が高校1年生の時に「目標達成シート」を作成した話は広く知られています。彼が「目標達成シート」の中心に書いた夢は「8球団からのドラフト1位指名」でした。その夢の達成のために、全部で81の目標を書き込んでいます。目標達成のための要素の中には、「体力」「コントロール」「スピード160キロ」というもののほかに、「人間性」や「運」も含まれています。そして「人間性」を得るために、「思いやり」「感謝」「継続力」をあげています。

「50-50」を達成した日、試合後、グラウンドで行われたインタビューで、大谷選手はこう話しています。「うれしさと、安堵と、それと同時に、記録を作ってきた先輩方へのリスペクトというか、そういう気持ちでいます」あくまでも謙虚です。大谷選手の人間性が感じられます。

大谷選手の現在の夢、次の目標は何でしょうか。夢(目標)に向かって、自分を鍛え、自分を磨き、チャレンジを続ける姿が、見る者の心を動かすのだと思います。

私の教員生活は、氷見市立北部中学校でスタートしました。まずは国語科の教員として、生徒、保護者の信頼を得るために、先輩の先生方にたくさん教えていただきながら、必死に、自分を鍛えていきました。部活動では、ハンドボール部の顧問になり、全国大会出場を目指して生徒と共に練習に励みました。今から思うと、たいへん未熟な指導者だったと思います。しかし、生徒たちはよく頑張ってくれました。指導を始めて5年目には、全国大会出場を果たすことができました。私の教員生活の原点が、北部中学校での6年間にあります。

北部中学校の校庭に石碑があります。石碑には「夢そして努力」という言葉が刻まれています。夢をもつこと、夢に向かって努力することの大切さをシンプルに表現した言葉だと思います。北部中学校で勤務した後、西部中学校で5年間、富山大学附属中学校で10年間、射水市立小杉中学校で1年間、中学校教諭として勤務しましたが、「夢そして努力」という言葉を忘れることはありませんでした。この言葉を大切にして、それぞれの学校で、夢(目標)に向かって生徒と共に活動してきたつもりです。

教員生活の最後に氷見市に戻ってきて、西條中学校、南部中学校の校長を務めることになりました。改めて「夢そして努力」という言葉を大切にしていきたいと思いました。そして、生徒たちには、次の三つのことをお願いしてきました。一つ目は、「夢(目標)をもつこと」、二つ目は、夢(目標)に向かって「自分を鍛えること」、三つ目は、勇気をもって「実践すること」「挑戦すること」です。

西條中学校、南部中学校での4年間で、目標に向かって挑戦する生徒の姿をたくさん見ることができました。部活動では、自分を鍛え、仲間と共にチャレンジする生徒の姿に胸を熱くしました。学校行事においても、運動会の「応援合戦」「南中ソーラン」からは、西條魂、南中魂を感じました。合唱コンクールでは、最高の合唱を目指して心を一つにした歌声を響かせてくれました。それぞれの目標に向かって、学習に真剣に取り組む姿も忘れられません。

今の私の目標は、「ふるさと氷見を愛し 次代を担う人づくり」「能登半島地震からの復興に向けて前へ進む氷見市を教育の面から支えること」です。これからも「夢そして努力」という言葉を大切にして、夢、目標に向かってチャレンジできる環境を整えていきたいと思っています。

皆さんの目標は何ですか。

子供たちの夢は何ですか。

よりよい教育実践に向けて、学びを深める

夏季研修会の一端を紹介！

学力向上研修会 7月31日
「資質・能力を育む授業づくりと学習評価」
講師 大妻女子大学 家政学部児童学科
教授 澤井 陽介 先生

澤井先生には、評価の捉え方を中心に、授業づくりについて、次のことを学びました。①教員の得意分野を生かして指導における財産を伝え合うことで、個を高め、学校全体として指導力を蓄えるよう「組織力で高める校内研究」の推進を大切にする。②評価結果を指導改善に生かし、子供の学びが学習目標に達するよう「指導と評価の一体化」を大切にする。③「選ぶ、決める、自力で追究する」などの工夫をすることで、子供は、振り返りと自己調整をしながら、主体的に学習に取り組むようになる。

参加者一人一人から評価の悩みや疑問等を拾い上げ、丁寧に教えていただいたことで、評価に関して理解を深めるとともに、参加者同士が互いに情報を共有することができました。



教育セミナー 8月2日
「子供を主語にする学校づくり」
講師 大空小学校 初代校長 木村 泰子 先生

木村先生は、2006年に開校した大空小学校で9年間校長として務められ、「すべての子供の学習権を保障する」学校づくりに情熱を注いでこられました。講演会の冒頭には「この講演会から何を学ぶか、求めるかは、先生方自身の中にある」と、研修観の転換について話された後、映画「みんなの学校」ダイジェスト版の動画を視聴しました。不登校や発達障害だとレッテルを貼られた子供たちを含め、大空小学校全ての子供たちと、教師や保護者、地域の方々がどのように関わってこられたのか、何度もやり直しをして取り組んでこられた事実を基に、熱く語られました。木村先生の問いかけから、自分自身の有り様、子供の姿を振り返り、「子供が主語の学校づくり」について考える時間となりました。



ふるさと教育研修会 8月6日
現地学習 氷見市立博物館、柳田布尾山古墳、
氷見ラボ水族館等
講師 氷見市教育委員会学芸員等

本研修会は、郷土に対する理解を深めるとともに、教材としての活用方法を探ることを目的として毎年実施しているものです。今年度は郷土学習資料「ふるさと氷見」の活用を目指し、研修会のしおりを作成して臨みました。布尾山古墳から望む富山湾と涼やかなあいの風に、はるか古墳時代に思いを馳せました。

ひみラボ水族館では、貴重な生き物に触れ、歓声と笑顔が広がりました。参加者は、体験を通して氷見の魅力に浸ることができました。



生徒指導研修会 8月7日
「児童生徒支援に向けた保護者との関係づくり」
講師 信州大学 教授 上村 恵津子 先生

上村先生からは、保護者等との合意形成を図るには、互いの「信頼レベル」を向上させていくことが大切だということをご教示いただきました。また、そのためには互いの意見や思いのずれを一致させることを焦らず、価値観や背景を理解し、尊重し合えるように聴くことの大切さも、事例を交えて分かりやすく話してくださいました。

「ワールド・カフェ方式」で、参加した先生方は、積極的に意見交換をしながら、主体的・対話的に学びを深めることができました。



道徳セミナー 8月19日
「『主体的・対話的な学び』を実現する道徳科の授業づくり」 **講師** 畿央大学 教授 島 恒生 先生

島先生は、「分かりきったことを言わせたり書かせたりする授業」「人物の心情理解のみに偏った形式的な指導」といった道徳科の課題を基に、「考え、議論する」授業について具体的に教えてくださいました。グループで相談したり、中心発問を考えたりする時間が豊富にあり、参加者は、自分事として真剣に考え、話し合っていました。発達の段階に応じた中心発問やねらいに迫る問いの提示等、授業に生かしていきたい大切な内容を学ぶことができました。



ENGLISH セミナー2024 ～ALT におすすめする「ふるさと氷見のすてき！」～

7月26日（金）に、市内小学校・義務教育学校の31名の5、6年生が、英語を用いて、ふるさと氷見を紹介する「ENGLISH セミナー2024」に集いました。

第一部の「ALT 交流タイム」では、はじめに、アメリカと日本の違いについて ALT が考えた英語の「3択クイズ」に答え、文化の違いを楽しみながら学びました。次に、アイスブレイキングとして「ゾンビゲーム」を行いました。また、4チームに分かれ、出されたテーマに応じて英単語で答える「英単語レース」を行い、参加者相互の交流を深めました。

第二部の「プレゼンテーション」では、内容が伝わる写真を用いて、「ALT におすすめしたい氷見、日本の文化等」を英語で紹介しました。発表者は、はっきりと大きな声で話したり、ジェスチャーやダンス、獅子舞等を交えたりするなど、豊かな表現力で発表することができました。

どの児童も真剣に発表を聞き、友達のよいところを見付けていました。日頃から、積極的に楽しみながら外国語科の学習をしている様子が伝わってきました。



<3択クイズ>



<英単語レース>



<プレゼンテーション>

小・中学生の科学作品 72 点が大集合！

<氷見市児童生徒科学作品展覧会>

開催期間：9月7日（土）～8日（日） 開催会場：氷見市教育文化センター4階ホール

今年度の氷見市児童生徒科学作品展覧会には、小・中・義務教育学校から72点の力作が集まりました。昨年度より10点増え、7日（土）と8日（日）の両



<県出品者の発表>

日には、合わせて232名の来場がありました。継続的な観察や様々な実験等を通して、自らの疑問を解決している作品、興味・関心を抱いた事象に対して、子供らしい視点から追究を重ねた作品、また今年度は、能登半島地震を経験したことを動機とした作品等、どれも時間をかけた素晴らしい作品でした。

審査の結果、以下の4作品が、富山県科学展覧会（富山市科学博物館、10/17～10/21）に出品されました。



<審査会の様子>

作 品 名	学校・学年	名 前	県科学展
ぼくちんにやってきたカニのひみつパート3 ～べにこのさんらんと赤ちゃん～	比美乃江小学校 4年	洲崎 佳佑	創意工夫賞
ボールのひみつ ～よくはずむボールをさがせ～	比美乃江小学校 4年	三輪 謙太	創意工夫賞
イッツ臭タイム！！においなくな～れ	西 の 杜 学 園 4年	山下 歩南	研究努力賞
土と水の関係 －水による土の硬さの変化－	北 部 中 学 校 3年	山本 悠月	創意工夫賞

新規採用教員 — 半年を振り返って —

一緒に遊び、共に学ぶ

比美乃江小学校 島 花音

「先生、昼休みにサッカーをしよう」とA児が声をかけてきた。4月からトラブルの多いA児との関わりに四苦八苦していたため、私を遊びに誘ったことに驚いたが、その日は思い切り一緒に遊び、A児の笑顔を見ることができた。A児に素っ気ない態度をとられても、声をかけ続けたことで、A児からの信頼を得ることができたのではないかと思います、とてもうれしくなった。

これからも、子供との信頼関係を築けるように、一緒に遊び、共に学んでいきたい。

生徒の可能性を引き出すことができる教員を目指して

北部中学校 木津 航汰

毎日の出来事が新鮮で、楽しさや、やりがいを感じた半年だった。反面、自分の未熟さを痛感し、落ち込むこともあったが、同僚の先生方や生徒の明るさに助けてもらった。時折、やる気の出ないまま登校する生徒の表情に出会うことがある。かつて自分もそんな日があり、目標をもてない生徒に寄り添い、自立のための伴走者になりたいと思い教員になった。「できた。分かった」の喜びのある数学の授業や部活動等での生徒との関わりの中で、彼らの可能性を引き出せるよう、これからも精進していきたい。

成長し続ける教員に

北部中学校 坂口 拓真

教員になり、あっという間に半年が過ぎた。思い返すと、先輩の先生方や生徒に支えられてばかりだった。

私は理科の面白さを伝えたいという思いで半年間、授業に取り組んできたが、初めてのことで、思うようにはいかなかった。落ち込むこともあったが、生徒から「今日の授業、楽しかった」と言われたり、先輩の先生方とたくさんコミュニケーションがとれたりすると、うれしい気持ちになる。そして、自分も早く成長したいと強く感じている。今後、うまくいかないことやつらいこともあると思うが、成長し続けることを目標に精一杯頑張りたい。

半年間を振り返って

西の杜学園 三浦 瑗也花

教師になりたいと思ってから10年が経ち、今年、夢が実現した。4月、初めて教壇に立ち、授業を行った緊張

は、今も鮮明に思い出せる。子供たちが学習課題について真剣に考えたり、「分かった!」と顔を輝かせたりする姿を見るのが、この上ない喜びだ。その反面、初めての仕事にとまどい、失敗し、落ち込むこともあった。そのたびに、周りの先生方に支えられながら課題を乗り越えてきた。

これからも、子供たち一人一人が顔を輝かせながら学校生活を送ることができるように、児童生徒と共に日々学び続ける教師でありたい。



ICT教育の推進に向けて

【ICT教育推進委員会】

今年度は「ICTスキル体系表」を作成しています。これは、その学年で最低限身に付けさせたい技能を明記したものです。

夏季休業中の推進委員会では、小学校版の内容について話し合いました。今後、小学校版を基に中学校版についても検討を進めます。

【1人1台端末時代のICT活用講座(体験型) サテライト会場研修】

9月19日(木)に、株式会社スキルの方を講師としてお招きし、Microsoft365のアプリを中心に授業での効果的な活用の仕方について、実際に端末を操作しながら学びました。参加者は、今後の活用に向けて意欲を高めていました。